

富士ロジテック

「埼玉ロジスティクスセンター」を開設

食品メーカーの首都圏東部のエリア配送拠点に

富士ロジテック（本社・静岡市、鈴木庸介社長）では、「埼玉ロジスティクスセンター」（埼玉県春日部市）を開設し、2月下旬から本格稼働させた。同社では食品メーカーのサードパーティー・ロジスティクス（3PL）を受託しており、関東地区における物流拠点の集約を段階的に進めてきたが、首都圏東部（東京・千葉・埼玉）のエリア配送拠点として新センターを立ち上げたもの。これにより、富士ロジテックが運営する群馬県邑楽町のハブ倉庫「館林物流センター」を拠点に、山梨、神奈川を除く東日本全域のエリア配送をカバーする体制が整う。

従来、同メーカーの栃木および群馬の工場で扱う製品（輸入品を除く）は、工場倉庫と地区倉庫を経由して関東甲信越地区のエンドユーザーに配送しており、工場倉庫、地区倉庫ともに分散していた。2008年春に富士ロジテックが新規で同メーカーに対し、物流における3PLの導入とともに、工場倉庫と地区倉庫をそれぞれ段階的に集約する物流合理化策を提案した。

08年秋以降、業務の流れや物流ルートを検証するため、富士ロジテックの社員が同メーカーの工場で輸送元請業務をスタートさせた。10年10月には、地区倉庫への供給拠点として、D C（在庫型センター）とT C（スルー型センター）の機能を備えたハブ倉庫「館林物流センター」を開設。これに伴い、栃木、群馬の各工場近隣に構えていた工場倉庫を同センターに統合した。

第2段として、神奈川を除く関東圏の地区倉庫の集約に着手。首都圏東部（東京・千葉・埼玉）のエンドユーザーへの配送拠点として、「埼玉ロジスティクスセンター」（延床面積3300平方メートル平屋建て）を2月1日に開設。消費税増税前の需要増を見込んだ在庫の積み増しに備える狙いもあり、従来の埼玉、千葉の地区倉庫を順次集約し、2月下旬から本格稼働させた。

なお、同メーカーに対する3PLでは、既存の業者との取り引きの継続が条件となっており、物流拠点の再構築は、いずれも3PL事業者の富士ロジテックと既存の倉庫・運送会社による「共同事業」という位置付けとなっており、倉庫の賃借やシステム整備、業務全般の管理を富士ロジテック、センター内の作業を既存の倉庫・運送会社が担当するなど協業体制を基本としている。

【富士ロジテックの食品メーカーへの3PL提案】

第1ステップ	物流における3PL導入および工場倉庫と地区倉庫の段階的集約を提案
第2ステップ	メーカー工場で輸送元請業務をスタート
第3ステップ	地区倉庫への供給拠点として館林物流センターを開設。栃木、群馬の工場倉庫を統合
第4ステップ	神奈川を除く関東圏の地区倉庫の集約の一環で埼玉ロジスティクスセンターを開設

今後は、東北6県に対する業務の受託範囲を広げるとともに、関西地区における同メーカーのハブ倉庫の運営会社と情報連携を密にし、全国の各地区へのより効率的な供給、東西の幹線輸送の効率化を検討。富士ロジテックが掲げる事業ビジョン「グローバル・サプライチェーン・エンジニアリング」（GSE）に基づき、将来的には、メーカーの需給調整機能まで担うロジスティクスの実現を目指す。

富士ロジテックの大賀卓也取締役上席執行役員は、同メーカーの物流拠点の再構築について、「食品はロット管理が厳しく、倉庫を集約することによって在庫を圧縮しやすく、エンドユーザーまでのトータルの輸送費を削減できる。今後は東西のハブ倉庫が連携を強化し、お客様の物流効率化をさらに推進していきたい」と話している。